

Fusyo Collaboration letter



10月16日 No.20 文責 廣田 秀俊

大運動会へつなげるために

“輪～つなぐ・広げる・のりこえる”児童会テーマのもと、小運動会に臨む子供たち。やる気に満ちた表情で元気いっぱいな姿を開会式前から見せてくれていました。



この日のめあては”全員で全力を尽くして大運動会へつなげよう”でした。全力を胸に秘めメール交換から始まりました。応援の力でサポートしようと、各色の応援団の指揮の下、大きな声がグラウンドに響き渡ります。赤も青も白も全力です。



小運動会は競技を縮小して行いました。ダッシュは最初の2組だけです。全力で走る仲間を見て、本番でもしっかり駆け抜けていこうと気持ちも持っていたようです。ダッシュの際には係の仕事も大忙しです。出発の合図を出し、審判を行い、得点をつけていきます。スタート前のライン引きも随時行っていきました。係の児童の動きで他の児童の気合いも入り直します。お互いがいい刺激を見せあっていました。



表現は2, 4, 6年生です。大きなグラウンドでたくさんの人の視線や声援を受けながら、真剣に踊る姿はとても素敵でした。自分でカウントしながら踊る子がいたり、指先までしっかり伸ばして集中して踊り続けたり、声をそろえてかけ声をかけあったり、これまでの練習の成果を生かそうとしている姿がありました。



1, 3, 5年生の団体競技が始まると、どの色も気合いの入った応援が続きます。運動会を盛り上げる声が、各色のチームワークをさらに強めていきます。どの色も諦めることなく、最後まで力を振り絞って頑張っていました。ダッシュも表現も団体競技も、学年テーマの思いを込め一つ一つを完成させていこうとしていました。



小運動会の振り返りの場面では、目標が達成出来たことを自身で感じながら、成長と課題を自分のなかで見つけ、次につなげていく必要性を児童会代表の児童が述べてくれました。



この事柄を受け、小運動会後の教室でも自分たちの成果の出し合いを行いました。“勝っても負けても一生懸命に”“できていないところを自分たちであげてみよう”“メリハリをもっとつけるべき”“まだまだできることがある”“限界突破しよう”と各クラスから大運動会へつなげる声が上がっていました。

次はいよいよ大運動会。成果と課題を確かめ合った子供たちの活躍が、今からとても楽しみです。

